



お、っぱんげ

寺林定

202号

令和3年8月10日発行
福島県会津坂下町議会

特集

会津農林高等学校
早乙女踊り保存クラブの思い

議会だより

第2回定例会（6月議会）目次

- 第2回定例会（6月議会）……………4～5P
- 8人の議員による一般質問……………6～10P
- みんなのひろば・編集後記……………12P



～広報広聴特別委員会でインタビューに伺いました～



ちが守り そしてつなぎます

会津農林高等学校 早乙女踊り保存クラブ



バー

4つの舞から構成
第一章「羽子板の舞」～田を耕す踊り～
第二章「棒の舞」～田をならす踊り～

「早乙女踊り」は会津坂下町の伝統行事である御田植祭で奉納される神事の一つで、五穀豊穡を祈願して踊られます。新館地区で大正時代から継承されてきましたが、少子高齢化のために継承が難しくなり、平成16年に中断しました。平成19年に町内の有志により「早乙女踊り保存会」が結成され、翌年「伝統芸能を後世に伝えるために自分達高校生も役に立ちたい」という思いから、現在の会津農林高等学校「早乙女踊り保存クラブ」が発足しました。当クラブは町の保存会と連携して活動しています。これからも町の伝統文化継承のために役立てるよう頑張ります。

会津坂下町の伝統文化の継承に役に立ちたい



気持ちよく踊るように、リズムと速さに気を配っています。

太鼓



ひいバアちゃんが元気なうちに見せてあげたい。



笛



踊り



重心を低くし、しなやかに踊るのがおもしろいです。坂下の伝統文化として伝え続けていきたいです。



早乙女踊り保存クラブに入り、伝統に触れることがとても大切だと思います。一生懸命吹いています。みなさん応援してください。



私たち



❀ 扇持ち増えた伝統守りゆく
 ❀ 水面に花笠映り朱に染まる
 ❀ 早乙女を守り伝える次世代へ
 「第39回 福島県川柳賞」
 青少年奨励賞受賞 部長 山内里紗さん



縁の下の力持ちであるマネージャーの仕事「みんなが活動しやすい環境作り」を心がけています。



マネージャー

部長の思い

第三章「花笠の舞」く収穫を祝う踊りく
 第四章「扇の舞」く千秋万歳を祝う踊りく
 ※扇の舞は戦後途絶え地域の人もその存在を知らない「幻の舞」でした。それを当時の踊り手だった方から話を伺い、令和元年の御田植祭で約70年ぶりに復活させました。

顧問の思い

「会津坂下町の大切な伝統文化を守りたい」と誠実に一生懸命活動している生徒達を誇りに思います。
 「地域のために自分にできることは何か」という視点をこれからも大切にしてほしいです。町民の皆様には今後も温かいご支援の程よろしくお願い申し上げます。
 会津農林高校 矢澤 郁 代先生

踊りや歌などの技術や形だけでなく伝統を大切にしたいという継承者やそれを応援してくれる方々の思いもつなげていきたいです。
 部長 三年 山内 里紗さん

歌



上の歌と下の歌のつながりの部分がわりなく、美しいつながりになっているところをぜひ聞いてほしいと思います。

令和3年第2回定例会

第七代町長 古川庄平氏



町長として初めての議会

6月6日に執行されました会津坂下町長選挙に立候補させていただき、このたび町長に就任し、町政のかじ取りを担わせていただくこととなりました。私は、町議会議員を5期20年務めさせていただき、町政運営やその課題についても関わってまいりました。議員から町長へとその役割は変わりましたが、「大好きな会津坂下町のために」という思いは、いかなる立場においても変わるものではありません。

さて、地方自治体は、自らの判断と責任で主体的な行財政運営を行い、住民の命と暮らしを守るとともに、特色あるまちづくりを進めていくことが求められています。私は、町長選挙に立候補した際に掲げた「変える勇氣！繋ぐ次世代へ！」の思いを実現するため、次の時代を担う若い人たちがまちづくりの主役で若い人たちが活躍できる会津坂下町を目指してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

財政の健全化を持続しながら町にとって何が必要なのか、話を伺いながら進めていきます。

6月24日から7月2日までの9日間の会期で開催され、町長報告7件、人事案件・専決処分・条例各1件、予算7件の合計17件が提出され、全て可決・同意・承認されました。また、最終日には議員提出議案2件が追加され可決されました。

請願・陳情の審査

請願名	提出者	委員会	本会議
陳情第1号 「江川綱弘いじめ事件再調査」に関する陳情書	江川和弥	総務産建 不採択	不採択
請願第3号 「国の『被災児童生徒就学支援等事業』の継続と、被災児童生徒の十分な就学支援を求める意見書」の提出を求める請願書	福島県教職員組合中央 執行委員長 國分俊樹 福島県教職員組合両沼 支部支部長 横田恵一	文教厚生 採 択	採 択
請願第4号 トリチウムなどの放射性核種を含むALPS（多核種除去装置）処理水の海洋放出方針決定の撤回を求める請願について	会津の大地と健康を守る 会会長 千葉親子	総務産建 採 択	採 択

討 論

請願について
私はこう考える



反対

山口 享議員

どうして日本だけがダメなのでしょう。WHOでもIAEAでもOKを出しているのか。一番怖いのはこのままタンクを保管し続けることによって、タンクの腐食により流れることとなります。問題を先送りせず、我々の世代で解決すべきであります。

反対

赤城大地議員

風評被害は断固として防がなければならないものであり、請願の趣旨については十分に理解します。しかしながら、同時に廃炉までの道のりが遠のくことがあってもならないと考えます。原発が立地する大熊町議会ではこれについての態度を明らかにしていませんが、廃炉作業を進めていただくことが1番の願いであると報道等に対し語っています。原発が立地する自治体議会の思いを尊重するとともに、政府方針に反対し撤回を求めた場合の議論は、少なからず廃炉までの道のりに影響があると考えられることから、採択に反対します。

賛成

蓮沼文明議員

風評被害の実例は会津の米、野菜等にも及んでおり福島県全体の問題でもあります。海洋放出に至るまで、政府及び東京電力が検討する時間は十二分にあったにも関わらず、検討結果が見られなかった。海洋放出ありきではなく、真摯に誠実な態度をもって、様々な処分方法を検討すべきです。我々は負の遺産を自分たちの孫の代まで残してはいけません。これ以上の犠牲を押し付けないようにすること。これは東京電力と政府に課せられた義務でもあります。

賛成

小畑博司議員

福島県民は犠牲者であり、今以上の負担を強いられる必要はありません。処理水保管のタンクを10万トン規模の石油備蓄タンクを10基増設することや、処理水を砂とセメントでモルタル化して保管すること等を含め検討すべきです。またアルプス（多核種除去装置）で処理した時に出る放射性廃棄物の処分も決まっておらず、先送りにされている今、海洋放出は撤回すべきです。

賛成

横山智代議員

諸外国の原発から放水されている処理水と福島第一原発の処理水は違う！放水することで日本の漁業だけではなく農林業やあらゆる産業が大きな影響を受けます。私たちはその多くの人たちに寄り添い国と東電には処理の方法のために研究・開発を更に進めることを強く求め賛成します。

議案第41号

会津坂下町国民健康保険税条例の一部を改正する条例

この条例については、適正かつ安定的な国民健康保険の事業運営ができるように、町条例を改正するものです。本算定により令和3年度に必要な国民健康保険税額を確定し、税率等の改正を行うものです。

討論



反対

横山智代議員

国民健康保険税は年金生活者にとって重い負担となっています。保険料の引き下げを求める声は切実です。こうした声にこたえる立場から条例改正に反対します。

審議案件に対する賛否の状況 (賛否が分れた議案)

件名	1 目黒 克博	2 蓮沼 文明	3 物江 政博	4 赤城 大地	5 横山 智代	6 渡部 正司	7 小畑 博司	8 佐藤 宗太	9 山口 享	10 渡部 順子	11 五十嵐 一夫	12 酒井 育子	13 青木美 貴子	14 水野 孝一
議案第41号 会津坂下町国民健康保険税条例の一部を改正する条例	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	議長
請願第4号 トリチウムなどの放射性核種を含むALPS（多核種除去装置）処理水の海洋放出方針決定の撤回を求める請願について	○	○	×	×	○	○	○	○	×	×	○	×	×	議長
議員提出議案第3号 トリチウムなどの放射性核種を含むALPS（多核種除去装置）処理水の海洋放出方針決定の撤回を求める意見書の提出について	○	○	×	×	○	○	○	○	×	×	○	×	×	議長
上記以外の議案は賛成全員で可決しました。 ○：賛成 ×：反対 欠：欠席 議長は採決に加わりません														

同意

議案第39号 人事案件 固定資産評価審査委員の選任について

氏名：武藤和伊氏

任期：令和3年7月1日～令和6年6月30日

どんな仕事をするの？

固定資産の価格の不服申立てについて（中立的な立場で）審査をします。

第2回臨時会

(5月11日開催)

一般会計補正予算（第1号）については、新型コロナウイルス感染症対策事業に係る補正で1億5,669万6千円の追加。予算総額74億669万6千円となりました。その他工事請負契約の一部変更についても可決しました。

第3回臨時会（6月10日開催）

財産の取得（除雪ドーザー）について可決しました。700万円以上の動産を取得の場合、議会の議決が必要です。（地方自治法96条）

齋藤文英町長

任期最後の議会



平成25年の町長就任以来、2期8年にわたり、町政を前に進めることが出来ましたのも、議員の皆様方を初め、町民の皆様方の御支援と御協力の賜物であり、心より厚く御礼を申し上げます。

2期8年間お疲れさまでした



一般質問

町の考えを問う

8人の議員が登壇

一般質問は、議員が町政全般について現状や方針を問うものです。一人当たりの持ち時間は答弁を含めて5分です。掲載している内容は、質問者自身が要約し広報広聴特別委員会が校正したものです。議事録は、議会のホームページのほか、ユーチューブでもご覧いただけます。

五十嵐一夫 議員（7ページ）

1. 町長の政治姿勢を問う
2. 町が抱える課題について伺う

青木美貴子 議員（7ページ）

1. 商工産業について
2. ワクチン接種の進捗状況と今後の進め方を伺う
3. これからの自治会を運営するのに必要なことは何か

蓮沼文明 議員（8ページ）

1. 町の人口減少問題対策について
2. 町商工業の活性化推進事業について
3. 「糸桜里の湯ばんげ」の今後の運営について

横山智代 議員（8ページ）

1. 福祉行政について
2. 国保の18歳未満の子どもに対する均等割の廃止又は軽減する考えはないのか伺う
3. 教育行政について

赤城大地 議員（9ページ）

1. 消防団・自主防災組織の育成事業について
2. 水田貯留機能強化計画（田んぼダム）について

小畑博司 議員（9ページ）

1. SDGs（持続可能な開発目標）をどのように施策に反映させているか伺う
2. 「すべての子ども達にとって楽しい学校」へ向かっての施策の展開は

佐藤宗太 議員（10ページ）

1. 町長の政治姿勢と施策について

渡部正司 議員（10ページ）

1. 新町長の政治姿勢について



五十嵐一夫 議員

新町長の「変える勇氣！」とは 機構見直しの調査研究を進める

問

①町機構について変える考えは。
②町自体をどう変えていくのか。
③公約から、各地区においての町長との懇談会の実施について。

答

①新型コロナ感染症の拡大により、新しい生活様式や働き方が広まってきていること、デジタル化による変革が求められており、見直しに向けた調査研究を進めます。
②町を変えるには職員の意識改革が重要であり、就任式で職員に訓示、3つの約束をしました。
庁舎内外を問わず挨拶の励行、来庁者に懇切丁寧な対応、町民の要望には「金がない」と言わない。知恵を出し合うことにより、変化が生まれます、信頼される行政を目指していきます。



再度公募か売却か？

答

本年度中に新庁舎建設事業の建設手法及びスケジュールを示したい。

問

震災対策は予断を許さない状況です。庁舎位置は議決が済んでおり、早期の新庁舎敷地の確保を提言する。

町が抱える課題 庁舎と温泉

庁舎本年度中スケジュール示す

問 糸校里の湯、指定管理者の募集をしたが、計画どおり進めるのか、変えるのか。
答 6月25日までに応募はなかったため売却を進めるところであります。応募にあつての現地説明会に6社の参加があり、町民の継続希望も多数あつたので、継続が可能な財政負担を再検討し、可能であれば再度公募し、困難であれば売却します。



青木美貴子 議員

ふるさと納税や地域おこし協力隊 へのさらなる取り組みは 新たなPR手法の研究を進め取り 組んでいきます

問

ふるさと納税額及び納税者増となる為に、どのような取り組みを行っているのか。

答

平成2年度の寄付額の実績は3186件、4842万8千円であり、前年度と比較しますと件数・納税額共に約1.5倍になるなど町が平成23年度よりふるさと納税に取り組んでから過去2番目の納税額となりました。今後も新たな返礼品の発掘、インターネットを活用したPR手法の研究を進め、積極的にふるさと納税に取り組んで参ります。

問

地域おこし協力隊の活動成果と課題は何か。また、課題解決には何が必要と感ずるか。

答

平成27年度から地域おこし協力隊の採用を開始し、今年度まで6名の隊員が活動して参りましたが、任期途中で退任となつた方が3名いらっしゃいました。これは町が求める任務内容や地域の現状と隊員本人が希望する活動内容にギャップが生じてしまふことが要因であつたと考えられます。今後は実際に活動する地域を知り、移住後の生活がイメージ出来るよう採用

新興住宅が増え求められる自治会活動について

担い手不足が課題です

問

町行政において住民の協力が必須となるが、区長や民生委員など個々の団体に対しての意識改革や町としての対応をどのように考えるか。

答

自治会などの運営に当たってはアパートの増加や若者世帯の転入などによる地域コミュニティの希薄化・高齢者世帯の増加などによる自治体役員の担い手不足などこれまでの自治会の在り方から変化が求められる時代となつていふものと認識しております。自助・共助・公助の役割分担を基本に行政と地域とが連携して取り組むことが重要であると考えます。



蓮沼文明 議員

「糸桜里の湯ばんげ」の継続による町財政シミュレーションへの影響はないのか
町の持続可能な財政運営に支障が生じない範囲での調整が必須と考えます

問

今回当該施設において指定管理者を公募しているが、年間の収支バランスをどの位で試算しているのか。また、町の「財政健全化アクションプラン」の目標である収支の健全化並びに持続可能な財政運営等に今後支障が出ないのかを伺う。

答

財政健全化アクションプランでの財政シミュレーションへの影響ですが、今回の公募では、町の財政負担はない条件となっておりますので、影響は無かったものと考えております。しかし今後、温泉施設として継続していくための検討において財政負担が必要となってくる場合には、再度、財政シミュレーションにおいての影響を試算し、持続可能な財政運営に支障が生じない範囲での調整が必須となると考えるものと考えております。

財政シミュレーションにおいての影響を試算し、持続可能な財政運営に支障が生じない範囲での調整が必須となると考えるものと考えております。



今後の動向が注視される糸桜里の湯ばんげ

問

若い子育て世代の「戸建て賃貸住宅」等の町の建設計画は町内外を問わず新住宅を取得する若者世代に対して補助金制度を検討してまいります

答

若い子育て世代のための「戸建て賃貸住宅」の建設等について、町の見解を伺う。

問

町といたしましては、若者世代を中心とした住宅の取得を支援することにより定住を促進し、働く世代の増加に伴う住民税や、住宅の新築による固定資産税の増加といった効果を狙いとした取り組みを実施したいと考えております。町外からの転入者の増加と町内での新築転居を見据え、現在、町営中岩田住宅跡地の民間譲渡の手続きを進めております。これを機に、町内外を問わず、新たに住宅を取得する若者世代に対する補助金制度を検討してまいりたいと考えております。

これも質問

問 人口減少問題に対し、現在に至るまでの町の施策及びその成果、並びに今後の対策を問う。

問 町商工会に加入している会員事業者数の推移及び今後の町の働きかけについてを伺う。



横山智代 議員

「寝たきり高齢者等紙おむつ給付事業」の再開は！
どのような実施方法が良いのか協議してまいります

問

「寝たきり高齢者等紙おむつ給付事業」の再開を希望する署名簿提出に対する回答を伺う。

答

今般の新型コロナウイルス感染拡大により、在宅の寝たきり高齢者が介護保険サービス利用を控えざるを得ない状況や、介護する家族の経済的・精神的負担軽減につきましても検討しております。

この事業については、町に対して署名提出の有無にかかわらず、在宅の介護高齢者を対象とした支援の一つとしてどのような実施方法が良いのか、今後介護保険運営協議会の中で協議してまいります。



問

育児休業中は幼稚園「預かり保育」が認められない理由は今年度より判断基準を見直しましたが現状維持です

答

幼稚園「預かり保育」が育児休業中は認められないのはなぜか、幼稚園における預かり保育は、保護者の就労や妊娠・出産等により家庭において必要な保育を受けることが困難である園児とされていますが、現在幼児教育の無償化により預かり保育も無償となり育児休業中の方と家庭保育している方の間に不公平感が生じてしまうことや園児と親とのスキルアップが重要であることから預かり保育の判断について検討し、今年度より判断基準を見直しましたが、育児休業中の預かり保育は現状維持です。

これも質問

問 国保の「子どもの均等割」の廃止又は軽減を

問 学校給食の無料化・一部補助を
問 小中学校女子トイレに生理用品の配置を



赤城大地 議員

消防団員の報酬引き上げについての考えは
来年度の予算措置を検討してまいります

問 消防団の年額報酬および出動手当について、国の基準が示され、本町消防団の年額報酬においてはその基準額よりも低い額となっているが、今後どのような対応をとるのか伺う。

答 本年4月13日付で消防庁より通知がありました。内容としては災害時の出動手当について一日当たり8千円を標準額とし、また、団員階級の年額報酬の基準を3万6千5百円とするものです。本町の消防団員の報酬および出動手当は条例により定めており国が示した額よりも少ない現状です。団員報酬、出動手当はその一部が普通交付税により交付されておりますが、報酬額を引き上げた場合の財源措置についてはいまだ示されておらず、現在のところ一般財源により対応することとなります。町におきましては来年4月1日施行に向け、条例改正や予算措置を検討してまいります。

田んぼダムをどのように考えるか
取り組む場合は農業者の理解が必要不可欠と考えます

問 国が進める田んぼダムについて本町の取り組み状況を伺う。

答 本町では現在のところ取り組みを行っておりません。田んぼダムについては水田に雨水を人為的に貯留させるため、稲作に影響があり、農業者の理解が必要不可欠です。また田んぼダムは河川流域の自治体と連携を図ることが必要です。今後、関係機関と連携を図りながら取り組んでまいります。



会津坂下町は会津盆地内の河川の最下流域（Google Mapより）



小畑博司 議員

SDGs（持続可能な開発目標）をどのように施策に反映させているのか
農業者が「国民の食糧供給を担っている」という誇りを持ち、経営を継続できるよう支援策を進めています

問 極度の霜の被害がわが町へもおそいかなり、被害は日を追うごとに大きくなりそうです。今年はジャガイモの種の確保も困難でした。気候危機とも言われる気候変動を踏まえての食糧の確保策と、振興計画や実施計画にどのようにSDGsの視点が反映されているのか伺う。

答 農業を基幹産業とするわが町におきましては、SDGsに掲げられている食糧の安全保障を担っていると認識しております。町の農業を活性化させ、魅力とやりがいのある産業として確立し、将来にわたって持続的に発展させていくためには、担い手の育成・確保と、農村コミュニティの再構築に向けた取り組みなどを両輪で進めていくことが極めて重要だと考えております。「農業者が国民の食糧供給を担っている。」
「という誇りや使命感を持ち、発展的に経営が継続できるように支援してまいります。」



遅霜被害を受けた果樹園

「すべての子ども達にとって楽しい学校」へむかっの施策の展開は
「授業づくり」と「学級づくり」を基本としております

問 学校は本来「すべての子どもたちにとって楽しい場所」でなければ、との思いから全国で様々な取り組みが実践されています。主体的な学びへと導き、イジメと決別する、楽しい学校づくりの実践を期待して、現在と今後の考えを伺います。

答 すべての子どもたちにとって楽しい「学校」は本町の教育が目指す方向です。そのために本町では、授業づくりと学級づくりを基本としております。

教師が子どもをよく観て、子供の声に耳を澄ませ、子どもの気持ちに寄り添い、「できる・分かる授業」づくりを実践しています。また、「一人ひとり」は違いがあり、それぞれの良さがある。「という多様性を受け入れる教育の中で安全・安心な学級づくりをし、教師と児童・生徒の信頼関係づくりに取り組んでおります。」



佐藤宗太 議員

町長の政治姿勢と施策についての考え方は

公約に掲げた「新しいまちづくりの推進」「人づくり・少子化対策」「産業のさらなる振興」「健康づくり」の4つの柱を基に推進していきます

問 古川町長の最重要施策は。

答 最重要施策としては、庁舎の建設があります。

問 庁舎建設の考え方は。

答 現在の役場庁舎は、老朽化や耐震性の観点から、防災拠点としての役割を果たすことができないため、一日も早い新庁舎建設が必要であると考へており、本年度中に建設手法及びスケジュールを決定してまいります。

問 会津西部の中核である当町をどのように発展させていくのか。

答 会津西部地域に位置する当町は、交通の要衝として古くから栄えてまいりました。会津西部に暮らす人々にとって、生活に欠かすことができない交通、医療、生活面の機能をもった会津坂下町は、会津西部の中核の街であると認識しています。

しかし、人口減少により、商業施設では収益減少による支店の撤退が発生するなど、中核を担う機能の減少が懸

念されることから、これらの機能を維持するため、過疎対策に取り組んでまいります。その方法として、町外からの人口流入を増やし、町外への流出を減らす施策を多方面より実施してまいります。

問 外郭団体の在り方について統合・再編を検討すべきと考へるが。

答 各団体が統合することにより存続していくことも選択肢の一つであるとして考へております。統合することで、給料や雇用条件が標準化し人材不足の解消につながるだけでなく活動領域が広がるなど、より効率的な行政サービスを提供するためのパートナーとして、その活動を継続できると考へています。



渡部正司 議員

町民の声にどう向き合っているのか

丁寧な耳を傾けます

問 町長はこれまで、議会議員、議長として長期に努めてきました。今や、首長たる立場にあつて、かつての発言をどう考へるか。また、新首長としての発言の重みをどのように考へているか。

答 町議会の品格をより崇高なものとするため、議長という立場において議会をまとめるべく発言したものであります。町長として公の場で発言する以上、町を代表しての発言であり、責任の重さについても十分に承知しております。町長として、その重みを改めて肝に銘じて町政運営にあたつてまいります。

問 町民から信頼され、心の温かい町を創るとしているがどう実践するか。

答 役場と町民の皆様が「つながり」を感じられ、頼られる役場にするのが欠かせないと考へております。職員と3つの約束をしました。町民の方と会ったら挨拶をすること、親切丁寧に対応すること、「町にはお金がないから」とは言わないこと。職員とコミュニケーションを取り、意識改革を促し、まちづくりに対する思いを共有してまいります。

問 新町長として町民に何を期待するか。

答 皆様の声をお聞かせ頂くことであり、町政に最大限活かしてまいります。各地区で開催する「地域づくり懇談会」において皆様の声を直接伺いたいと考へております。貴重なご意見を、お聞かせ頂く事を期待しております。





各委員会の活動



総務産業建設常任委員会

本委員会所管の総務課、政策財務課、産業課、建設課が取り組んでいる実施計画全74事業について、各課と意見交換会を行いました。5日間に渡る活発な意見交換によって、提案等を含み諸課題が共有されました。町民の皆様にとってより良い事業へ発展するよう取り組んでまいります。



文教厚生常任委員会

文教厚生常任委員会の所管は生活課および教育委員会（教育課、子ども課）の分掌事務です。昨年度においては新型コロナウイルスの対応について（インフルエンザ予防接種の町補助など）の要望書の取りまとめや学校での感染予防対策の視察などを行いました。



広報広聴特別委員会

令和3年1月25日発行をもって記念すべき200号を迎えました。これからも常に町民にとって議会が身近な存在である様な紙面づくりを行ってまいります。町民皆さまからの「議会だより」に関するご意見やご感想をお待ちしております。

活発な委員会活動を行っています

「全国地方議会サミット2021」オンラインで参加

7月7日～8日「社会の変化やデジタルで議会が変革する」をテーマに研修を行いました。コロナ禍によりオンラインでの参加になりましたが、先進議会の実践から議会事務局、メディアのあり方まで様々な講義を受けました。

自然災害はいつ起きるか分かりません。いついかなる時でも議会活動が継続できる体制を整える必要があるということを改めて感じました。



議会改革特別委員会

課題として「議員報酬について」「常任委員会数減になったことによる効果と弊害の検証」「議会先例集の検証」「政務活動費の検討」を精査検討し、議員総意の課題として「開かれた議会」を目的とした改革を提案していきたいと考えます。



行財政改革検討特別委員会

委員6名で「公共交通（交通弱者）についてのあり方について」「財政健全化への取り組みの検証について」など活発な議論をしています。また、念願である新坂下厚生総合病院への路線バスの乗り入れや停留所の整備の提案など、担当課職員を交えて意見交換も行っています。



みんなのひろば

縁あって喜多方市高郷町から嫁いで40年。町外の職場から晩（ばんげ）に坂下に寝に帰るような生活でした。認知の入った義母の介護の為57歳で退職。町からのオムツ券・オムツのゴミ袋・ケアマネ・訪問看護・訪問診療等々、地域や大勢の方々に励まされ、助言を頂き「私一人で看ているのではない。義母は生かされている」と気づきました。平成30年9月に悔いなく義母を見送る事が出来ました。今でも多くの方々に感謝しております。突然平成30年度末でオムツ券が廃止。私をはじめ在宅介護の方々はビックリ・ガックリ！傾聴ボランティア・在宅介護者同士のつぶやきサロン等を立ち上げましたが、オムツ券の復活が在宅介護への心のケアだと思い、オムツ券復活の署名を集めました。前齊藤町長からの引継により、6月議会会で前向きな答弁をいただきました。福祉に優しい、安心して生活できる笑顔あふれる会津坂下町を望んでやみません。署名に協力いただいた多くの方に感謝です。



高波久子さん
(中村)

感謝

「我が町の未来は子供たちの双肩にかかっている」
こんな言葉が書かれていた大きな看板が近隣の町に掲げられていた時代がありました。当時の中学校では嵐が吹き荒れ、その対応に心を痛める日々だったように思います。そんな中、子育て世代の親達へ叱咤激励のメッセージとして掲げられたものではないかと推測します。現在この看板は取り払われ、当時の子供たちも40歳を超え、町の担い手となっていraftしやると思っています。子供たちは成長の過程で多くの人と関わっていきます。その関わりが子供たちの育ちに大きな財産になると思います。家庭・地域みんなが「子供たちを大切に育てる」ということを考えて行くことができればと考えます。

子育ても卒業し、孫との関わりの中で特に自分の子育て時の反省をする毎日です。どうぞ未来の町のために、子供と保護者の両面からサポートをお願いいたします。



佐藤慶子さん
(塔寺)

未来の子供たちへ

次回定例会のご案内

令和3年第3回定例会は、9月2日(木)から9月14日(火)までの会期(予定)です。一般質問は6日(月)、7日(火)午前10時開会予定です。傍聴にぜひお越しください。傍聴の際はマスクの着用をお願いいたします。

永年勤続功労者表彰 (議会議員 21年以上在籍)



五十嵐一夫 議員

祝

表題字提供

田んぼで踊っている時の空や田、花笠の色を用いて書きました。田畑の風景を感じてもらえたら嬉しいです。



会津農林高校3年
山内里紗さん
(早乙女踊り保存クラブ部長)

ありがとうございました！

編集後記

コロナ禍の中、高齢者を中心にワクチン接種が当町でも始まっております。東京では、賛否両論異例の中、オリンピック・パラリンピックが行われ、アスリートたちの熱い戦いが繰り広げられています。どのような結果であろうと自分の力を出し切ることができれば最良かと。コロナ禍でなければ、国民全体で1964年当時を思い出しながら大会を見守ることができただろうと思います。

静岡県熱海市で起きた大雨による土石流。多くの方が犠牲になられ心が痛む思いです。救助や現場で対応なされた方々へ労をねぎらうとともに、いつ来るかわからない自然災害に立ち向かう地域消防団の方や関係者各位へ一刻も早いワクチン接種を望みます。

(委員長 青木美貴子)

広報広聴特別委員会

委員長 青木美貴子
副委員長 横山 智代
委員 目黒 克博
委員 蓮沼 文明
委員 小畑 博司